



たかしま takashima

広報たかしま 2006.6.1発行

Takashima 2006 June No.20



子ども達の熱い!暑い!?戦い!
 夏を思わせるゴールデンウィークの3日間
 高島市長杯2006よみうり琵琶湖少年サッカー大会に
 2府4県から48チームが参加
 友好を深め、実力を競い合いました。

【高島市長杯2006よみうり琵琶湖少年サッカー大会にて】

CONTENTS 目次

ごみ減量大作戦	2・3
タウンピックアップ	4
市長日記・シリーズ環の郷	5
教育委員会 Information	6・7
みんなで子育て親育ち!地域で子育て、親育て!	8・9
健康生活してますか?	10・11
そうだ、図書館に行こう!	12・13
みんなのページ	14・15
まちネタ写真館	16・17
情報お知らせ版	18~26
文化情報「ともし火」	27
お知らせ 病院・警察・窓口・納税	28・29
行事カレンダー	30・31

6月号
平成18年



Home Page Address
<http://www.city.takashima.shiga.jp>
 Mail Address
 t-info@city.takashima.shiga.jp

発行・編集 高島市役所企画部秘書広報課
 〒520-1592 滋賀県高島市新旭町1-1-1 565番地 ☎074925-8130
 高島市ホームページ <http://www.city.takashima.shiga.jp>
 高島市メールボックス t-info@city.takashima.shiga.jp

高島市 歴史散歩

No.18

湖西の人々の生活を支えた江若鉄道

昭和44年にその役割を終えるまで、湖西住民の生活に最も密着した鉄道であった江若鉄道の車両が、高島市内を走るようになったのは、昭和2年に北小松駅・大溝駅(後に高島町駅と改称)間が開通したときのことです。

江若鉄道は、その名前のとおり、近江(滋賀県)と若狭(福井県南部)を結び鉄道として、明治時代末ころから建設の計画が進められてきました。許可の規定が厳しかったことや膨大な費用がかかることから、実行に移るまでには時間を要し、大正8年に建設の免許が下された後も、工事は集められた資金に応じて進められ、全線が開通して終点の近江今津駅が開業したのは、昭和6年1月のことでした。その後江若鉄道は、通勤、通学、買い物などで地域住民に幅広く利用されたのはもちろんのこと、夏には湖岸に点在する水泳場、冬には箱館山・マキノなどのスキー場へ向かう人たちのレジャー用列車としても活躍しました。

高島市内には、廃線当時、南から順に、白鬚・白鬚浜(臨時駅)・高島町・水尾・安曇川・新旭・饗庭・北饗庭・近江今津という9駅がありました。現在駅舎の建物が残っているのは、近江今津駅のみで、線路敷の一部が湖西線に引き継がれました。

●江若鉄道の写真・思い出をお寄せください!
 教育委員会では大津市歴史博物館でこの夏に開催される「ありし日の江若鉄道」展に向けて、皆さんがご持ちの江若鉄道の写真や思い出話を募集しています。採用分は展示会の「江若鉄道の思い出写真」のコーナーに展示させていただきます。

昭和44年11月1日、江若鉄道のお別れ列車が運行されることになり、市内の沿線各所に江若鉄道の最後の姿を見送る多くの人々が集まりました。(文化財課)



田んぼで育てているのはお米だけ?いえいえ!ほうら顔を出したでしょ。

(高島市畑にて)

編集後記

▼晴れ渡った五月の空は心を爽やかにしてくれます。「さつき」は、早苗月の略で、田植えに由来するとか。田植えは昔から辛い農作業の一つでしたが、今では立派な機械がボロロンと軽快な音とともに人の何十倍もの速さで田植えをしてくれます。一粒からもうけた苗は、やがて万倍の恵みを与えてくれます。田んぼの水面に映えるそんな苗には、ひと冬越えて蓄えられた生命が満ちあふれています。▼今月の表紙は、5月3日から5日にかけて行われた少年サッカー大会の様子をご紹介します。今年はカラーガード隊がオーブニングに花を添え、市商工会が物産展や抽選会で大会を盛り上げてくださいました。友好を深め、実力を競い合った3日間。優勝杯を高島にこの大会に臨んだ地元チーム。ボールを懸命に追う彼らのまなざしには、生気が満ちあふれていました。惜しくも準々決勝で敗退しましたが、この日の悔しさは、きっと彼らの可能性を万倍にしてくれます。(広報担当O)

